いわきおてんとSUN 企業組合のご説明

いわき　おてんとSUN　プロジェクト

「いわきおてんとSUNプロジェクト」3つの復興まちづくりを始動！

オーガニックコットン

フクシマの新しい産業の創出

福島、いわきの農業の復興・再生に向けて、今春より、市内15箇所、1.5haでコットンの有機栽培が始まりました。初めてのコットン栽培に、地元農家やNPOなどが汗を流しています。多くのボランティアが首都圏から訪れ、栽培の支援を行っています。

このコットンを、今年11月に収穫し、来年6月にはTシャツなどの製品化を行う予定です。オーガニックコットンが、福島の新たな産業になることを目標としています。

コミュニティ電力

市民が主役の自然エネルギー活用

地域再生には、市民自らが自然エネルギーを活用し、新たないわきの産業へと発展させることが必要と考えます。現在、いわき市でも自然エネルギー導入の動きが見られますが、その多くは外部資本によるものです。

自然エネルギーの宝庫と言われるいわきにて、地域に希望の明りを燈す「いわきコミュニティ電力」事業の実現に向けて、体制やしくみを構築していきます。まずは、30kWの太陽光発電事業に着手する予定で、今後さらに取り組みを拡大させていきます。

スタディーツアー

被災地・いわきから学び、考える

被災現場において被災者自身から発せられる言葉。そこから震災の教訓を学び、自分たちができることを見出していく。被災地のいまの姿を目に焼き付け、震災を機に生まれた新たな試みを体感する。被災地・いわきから学び、考えるツアーをスタートしました。

被災地支援に関心がある企業や団体に訪問いただき、津波被災地の視察、語り部の講話、コットンなど復興への新しい試みを体験するプログラムを提供していきます。

協力団体　木紅木　avanti　絆ジャパン　リボーン REBORN Eco Tourism Network エコツーリズム・ネットワーク　We21ジャパン　JKSK

助成団体　W-BRIDGE

いわき市

いわき おてんとSUN プロジェクト

プロジェクトを担う3人の市民リーダー

震災前より、福島県いわき市を拠点に地域づくり活動を行ってきた3名が中心となり、震災後に、東京のNPO法人JKSKが主宰する「結結プロジェクト　車座交流会」を契機に企画を立案。独自の復興活動を行いながらも、復興への思いやいわきのビジョンを共有し、いわき市民自らが、市民のために行う地域づくりを協働し、実践していくために、コンソーシアムを形成。

吉田恵美子
いわきおてんとSUN企業組合　代表
オーガニックコットン担当
NPO法人ザ･ピープル　理事長　（20年にわたり、古着をリサイクル）

島村守彦
いわきおてんとSUN企業組合　理事　事務局長
コミュニティ電力担当
NPO法人インディアン・ヴィレッジ・キャンプ　副理事長／太陽光発電事業／関西より移住者

里見喜生
いわきおてんとSUN企業組合　理事
復興スタディツアー担当
NPO法人ふよう土2100　理事長／旅館「古滝屋」 社長／フラオンパク事務局長

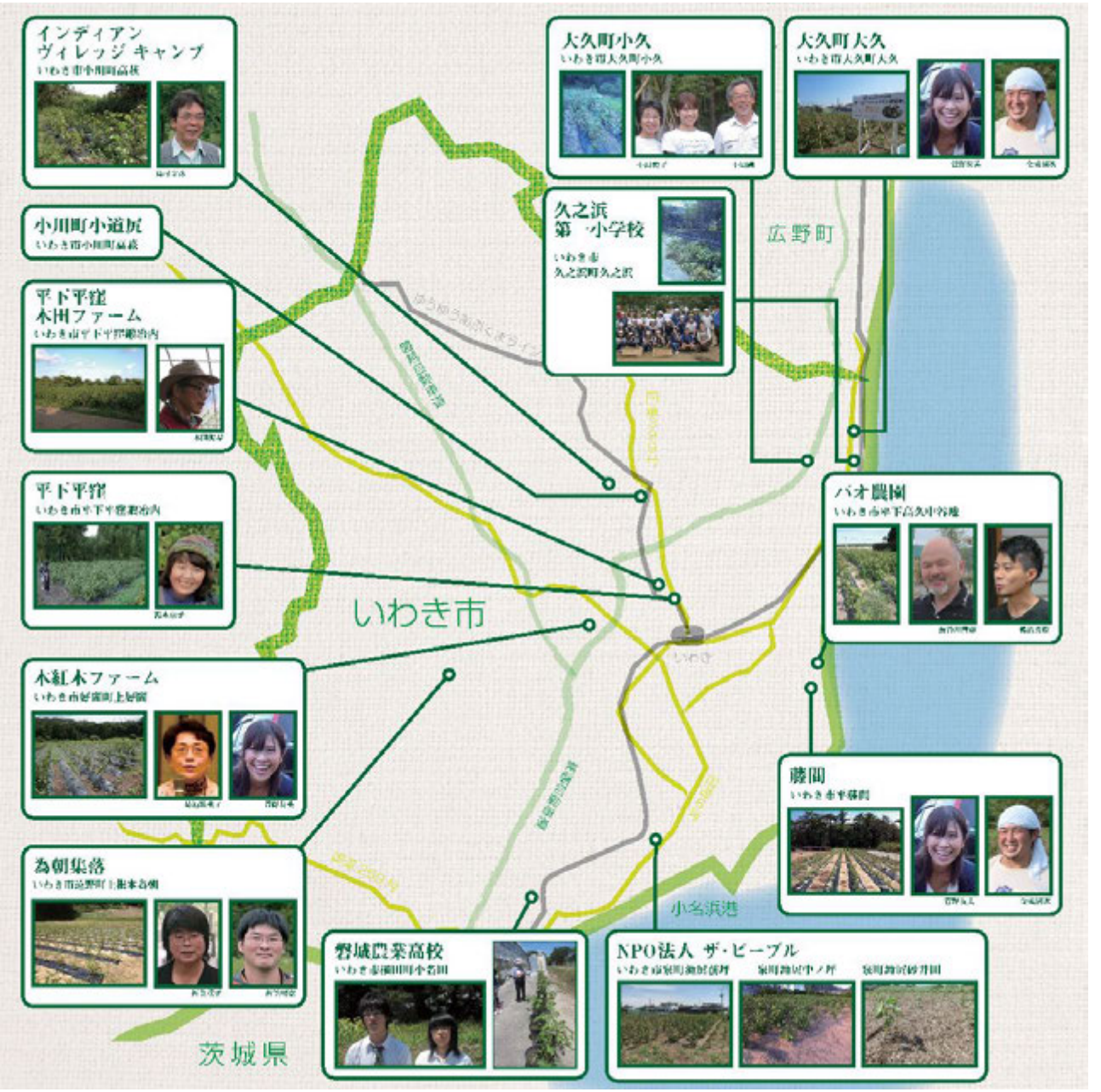
⇒ 2013年2月、自転するための組織として企業組合を設立。

ふくしまオーガニックコットンプロジェクト

コットンの栽培地

平成24年度は、泉町滝尻、遠野町上根本、大久町、平下平窪、好間町など市内15か所、作付面積は1.5ha。

平成25年度は、市内19箇所2.2ha、近隣市町(広野町、南相馬市)3箇所0.5haで栽培を進めている。中にはいわき市内の8小学校・2中学校 ・1高校での栽培も行われている。



オーガニックコットン栽培。種まき、草取り（2012年5月下旬～7月）

・首都圏より約100人のボランティアが種蒔きや草取りに参加

■草取りの様子（2012年7月）

オーガニックコットン畑の様子 （2012年9月）

花が咲き、実がなり、綿の収穫が始まった。

平窪　9/19

大久町　9/19

栽培から製品作りの流れ

2012年春スタート

5月17日
土壌検査実施

5月末
種まきボランティアツアー

5月種まき

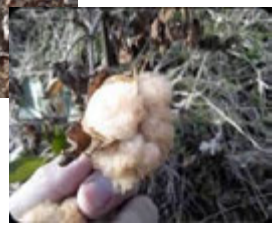
夏

6月～
草取り開始
援農ツアーなど

7月、8月、9月

秋

9月下旬～
収穫開始
綿摘み体験ツアーなど、収穫体験
コットンベイブ作り



冬

2013年1月～
綿繰り・紡績工場への出荷

2013年2月～6月
紡績・ニッティング・縫製

いずれは地域内に工程を持ち、新たな地域産業の育成を目指す

ボランティアの支援

昨年春よりコットン栽培に延1600人以上の方が参加

・絆ジャパン　・グリーンバード　・WE－21ジャパン　・リボーン
・JKSK 【アジアと地元の大学生交流（7/21,21）25人】
・早稲田大学復興人材塾（9/19,20）28人
■企業ボランティア：ブリヂストン（平成25年1月末～定期実施）　ソニー　　中村屋
ルミネクリエイツ　　東京スター銀行　　ほか
■企業視察：味の素冷凍食品、サイボウズ、ブリヂストン、クボタ

商品化①　フクシマ オーガニックコットンベイブ

キャップちゃん…地域の女性たちや避難して
きた女性たちの手仕事として
ねんねちゃん…障碍者施設利用者の仕事として

パッケージ中面にコットンの
育て方が記載されています

綿の種がついた人形です。
種をまいて育て、収穫された綿をいわきに送り届けてください。
モノづくりの仲間に加わってください！・・・のメッセージ。

クリスマスシーズンに4,000個を販売

フクシマオーガニックコットンベイブ
[ねんね]、[キャップ]
販売価格：各840円（税込）

写真左　品番：499150
フクシマオーガニックコットンベイブ［ねんね］

写真右　品番：499151
フクシマオーガニックコットンベイブ［キャップ］

商品化②　フクシマ オーガニックコットンTシャツ

- いわきを中心に国産綿5%を入れたオーガニックコットンTシャツ。（有機で国産の綿を入れた商品は非常に希少性が高い。）
- 6月22日にTシャツ完成記念イベント開催。
- 販売目標9,500枚。
- OEMや、日本だけでなく世界にアピールするために、日本のアニメーションとの連携を図ったTシャツを販売する。BIOFACHニュールンベルグへの出展。

いわきコミュニティ電力

【事業実施地】
住所：福島県いわき市小川町柴原
面積：約2,310㎡（約700坪）
用途地域：無指定地域　地目　山林

・現在、いわき市内でも自然エネルギー導入の動きが見られるが、その多くは外部資本、多くが大企業によるもの。
・いわきコミュニティ電力では、自然エネルギーの宝庫と言われるいわきにて、市民が主体となり、地域再生に資する事業を行う。
・まずは、30kWの太陽光発電施設が完成（4/25～売電開始。5/25お披露目式）。今後さらに取り組みを拡大させる。市民出資型も検討。
・最初の太陽光発電事業では，市民や都市部のボランティアが，敷地の開墾・整地から太陽光パネル設置までの作業に関わり，太陽光発電システムに関する学びの場となるように努めた。

■いわきコミュニティ電力　in　小川　事業計画

福島県事業補助	400万円
いわき信用組合借入	800万円
小川(30kW)イニシャルコスト　計	1200万円
売電額(実績)	20万円/月
借入返却年(単純想定)	5年後
借入返却後　毎年収入	240万円/年

次のサイトや
関連事業へ活用
事業を拡げる

■いわきコミュニティ電力　将来像

	5年後	10年後	20年後
コミュニティ電力サイト数	10か所	30か所	50か所
発電力　合計	500kW	1，000kW	2，000kW
関わった人の数	1，000人	5，000人	10，000人

いわき市小川町で描く新しいコミュニティ電力の姿

被災地復興スタディツアー

・被災現場において被災者自身から発せられる言葉。そこから震災の教訓を学び、いま自分たちができることを見出していく。被災地のいまの姿を目に焼き付け、震災を機に生まれた新たな試みを体感する。被災地・いわきから学び、考えるツアーをスタート。
・被災地支援に関心がある企業や団体に訪問いただき、津波被災地の視察、語り部の講話、コットンなど復興への新しい試みを体験するプログラムを提供している。

来ていただくことで、地元の元気が出る

震災後、少しずつ変わり行くいわきのありのままの姿を見てほしい、感じて欲しい

被災体験を話したい人はいるが、話す場が少ない

復興への新たな取り組みを見てほしい、参加して欲しい

■ツアーの基本構成

津波被災地
津波被災施設
仮設商店街

＋

語り部の講話・交流

＋

オーガニックコットン体験・コミュニティ電力体験

＋

いわきの復興を考えるワークショップ

■ツアーの様子

ツアーの実績

■平成24年度実績

50組900人＝約8組150人／月×6ヶ月

語り部育成　38人

・県が窓口で行政や公益団体等の受け入れが中心。
・ブリヂストン企業ボランティア（平成25年1月～月に2回程度）

いわきおてんとSUN企業組合

いわき市の3つのNPOの代表を務める3人と、市内の若手3人を加え、6人で事業を推進する主体
「いわきおてんとSUN企業組合」を立ち上げた。（2013年2月）

①企業組合とは
　企業組合は、利益追求のみではなく生きがいや志に共感した事業者、勤労者、主婦、学生などの個人（4人以上）が集まり、自らの働く場を創造するために事業活動を行う組合で、創業に適した法人形態。

②企業組合のメリット
I.4人以上の発起人で設立することができ、信用力が高まる。
II.統一目的のもとで活動しますので、協力関係が強固となり、円滑な組織活動が行える。
III.税制・金融面での優遇や各種助成措置を受けることができる。
IV.会社に比べて小額の資本で法人格と有限責任を取得することができる。

いわきおてんとSUN　事業目標

		2012年度（実績）	2013年度	2014年度	2015年度
オーガニックコットン	栽培	15箇所1.5ha 都市部ボランティア1,500人	22箇所2.7ha 都市部ボランティア1,000人 地域住民体験者500人	5.0ha 都市部ボランティア1,000人 地域住民体験者800人	6.0ha 都市部ボランティア1,000人 地域住民体験者1,000人
	販売	コットンベイブ4,000個	Tシャツ9,000枚 コットンベイブ5,000個	Tシャツ18,000枚 コットンベイブ5,000個	Tシャツ25,000枚 コットンベイブ5,000個
コミュニティ電力		組合施工1基（30kw）	組合施工1基 コーディネート2～3基	組合施工1基 コーディネート2～3基	組合施工1基 コーディネート2～3基
スタディツアー		参加者50組900人（半年間）	参加者120組2,400人	参加者140組2,800人	参加者160組3,200人

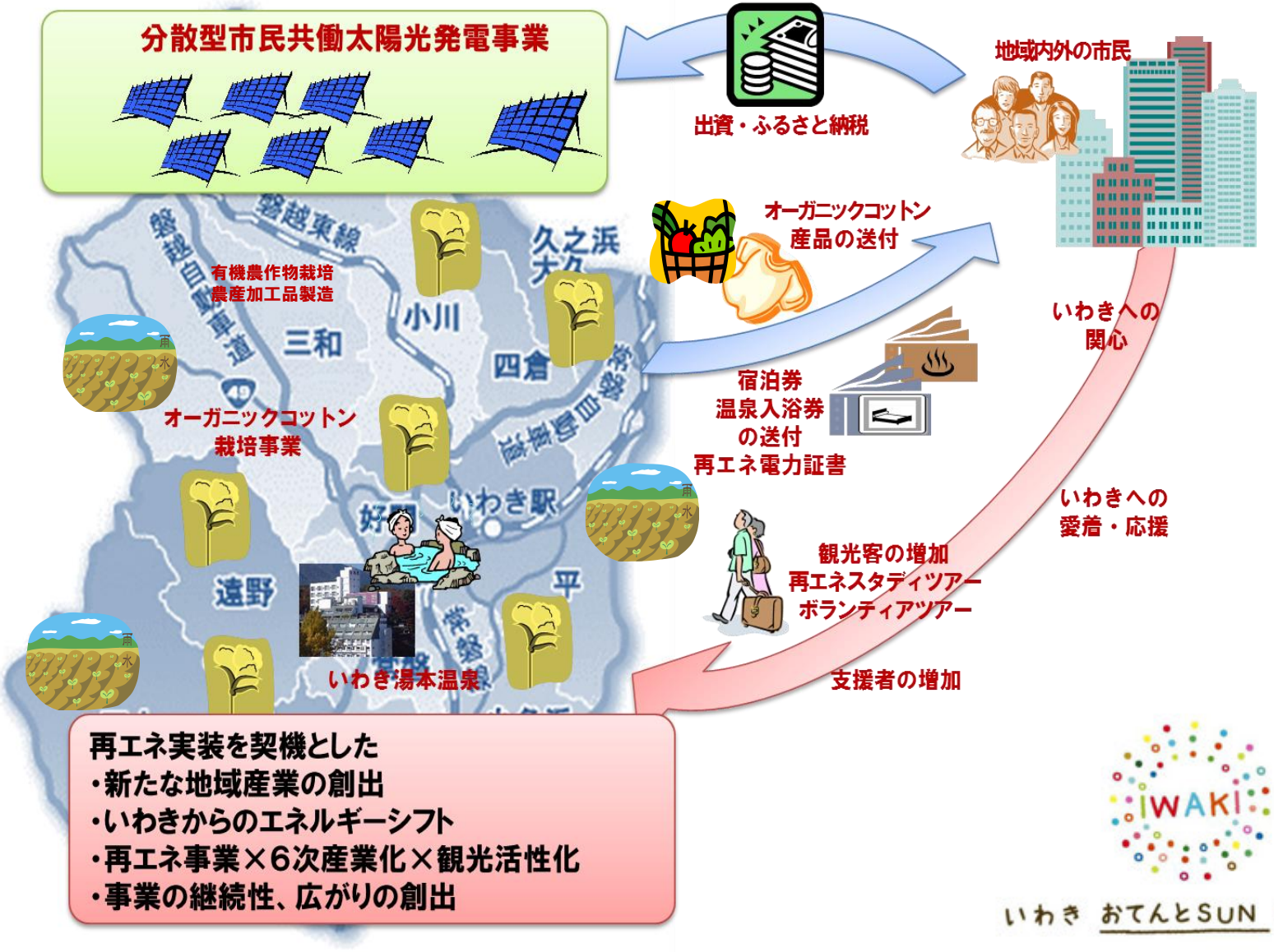
いわきおてんとSUN　事業計画

■事業収入計画

	2013年度	2014年度	2015年度
合計	30,809千円	33,890千円	47,780千円
オーガニックコットン	20,009千円	20,890千円	30,580千円
コミュニティ電力	6,000千円	7,400千円	10,800千円
スタディツアー	4,800千円	5,600千円	6,400千円

純利10%程度を確保し、事業性を高めていく。

「いわき・おてんとＳＵＮプロジェクト」の将来像



IWAKI

いわき おてんとSUN プロジェクト